



1年目看護師は4月に入職して5カ月が過ぎ、夜勤もスタートしました。

多重課題研修は、グループ病院でこの時期に行われる、病棟でのロールプレイング研修です。

ラダーレベル I 【多重課題】

病室には3名の患者様が入院しています。研修生は、それぞれの患者様の背景や状況設定を事前に説明されています。自分なりに業務の優先順位を考えてから研修に参加し、その後、グループワークで気づいたことや反省点などを話し合い発表し、意見交換をします。



点滴交換に来たら…

研修では、教育担当である先輩看護師がさまざまな患者様になり切ります。

Aさんの点滴交換のために病室を訪れると、Bさんは「痛み止めが欲しい」と訴え、Cさんは「トイレに行きたい」と訴えます。Cさんには認知症もみられ、介助が必要である・・・という設定です。

ある研修では、Aさんの点滴交換中、Bさん、Cさんには「お待ちください」などの声掛けをします。でも、トイレに行きたいCさんは我慢ができません。

「自分で行けるわ」と、とうとうベッドに立ち上がってしまいました。



Cさんがベッドに立ってしまった！



Bさんに痛み止めを用意している間に…

またある研修では、Cさんをトイレにお連れし、Bさんに痛み止めを用意している間に、介助が必要なCさんは、一人でベッドに戻ろうとして転んでしまいました。



Cさんが転倒してしまいました！

多重課題研修では、危険予知、優先順位の判断、そして患者様の気持ちに寄り添うことができるかがポイントです。

グループワークでは、「『痛み止めは何分後に効いてくるの？ 効かなかっただらまたすぐ飲めるの？』という患者様の質問に戸惑った。薬の知識も必要だし、痛みに不安を抱えている患者様の気持ちを和らげる必要性を感じた」、「実際に起こり得ることだと思い、身の引き締まる思いで研修を受けた」、「慌ててしまい、『お待ちください』しか言えなかった」など、さまざまな意見や感想が挙がり、研修生全員で反省と学びを共有しました。



自分の傾向を分析。看護に活かす



痛み配慮しながらギャッチアップ



ナースコールは看護師のためにも必要



割り込み業務にも冷静に対応



優先すべきは なにか？

教育担当者からは、「患者様の立場では『お待ちください』だけでは解決できないので、声掛けには、説明と患者様の納得が大切」、「ナースコールを手元に置いてくれたり、トイレの際カーテンを閉めてくれたりなどの細やかな配慮があるだけでも安心する」、「一人で解決しようとして焦るとインシデントに繋がる恐れがある。ナースコールを使ってほかのスタッフを頼るのは間違いじゃない」などの講評がありました。



厳しく、ときには暖かく見守りながら、一人ひとり指導していきます



国際医療福祉大学 市川病院

〒272-0827

千葉県市川市国府台 6-1-14

電話 047 (375) 1111

看護部サイトはこちら⇒

